

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原 一夫 TEL06-6833-9227
 広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田 茂夫 TEL072-850-5781
<http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/>

平成17年2月(2005年)No.470

年度大賞は紙本さんの「御柱祭」に

平成16年度作品の中から、最優秀作品と認定された紙本さんの「御柱祭」川越編に対しOMC年度大賞が、年度賞には山本さんの「棚田のハニ族」と河合さんの「凍れるとき」が選ばれました。また奨励賞には江村さん、努力賞には森口さん、審査員特別賞に増池さんの作品がそれぞれ選ばれました。これらの受賞者には新年例会後の総会の席で合原会長より記念の楯が授与されました。おめでとうございます。なお、年度賞受賞対象者には、日本アマチュア映像作家連盟所属会員は辞退することになっております。また、年度大賞を3回受賞された会員は以後、対象者からはずれ、審査員に推薦される等のOMC会則改正も総会で正式に承認されました。

受賞者

「楯」授与・年度大賞	紙本 勝さん	「御柱祭(川越え編)」
〃 年度賞	山本正夢さん	「棚田のハニ族」
〃 年度賞	河合源七郎さん	「凍れるとき」
〃 奨励賞	江村一郎さん	「YOSAKOI 2004」wide
〃 努力賞	森口吉正さん	「姫川源流をゆく」
〃 審査員特別賞	増池 茂さん	「西梅田寸描」

その他、例会最多出席者、最多出品者に対しても記念のミニDVテープが授与され、拍手喝采のうち無事総会を終り新年会に席を移しました。新年会には久方ぶりの方のお元氣な姿もあり31名を集め盛会でした。

2月例会のお知らせ

2月例会は26日(第4土曜日)午後6時より大阪市立難波市民学習センター(JR難波OCATビル4階第4研修室)にて開催します。このところ出席者、出品数とも増えています。どうぞお早目にお越し下さい。

作品研究会のお知らせ(26日午後1時30分より)

今月より12月を除く偶数月に開催。会場費分担金として500円お願いいたします。特に助言等を求めたい作品や、どうまとめたらよいか等の作品をお持ち下さい。OMC会員外の人受付けます。

今年の撮影会は ”釣り竿づくり”で計画進行 6月の予定で計画

会員諸氏お楽しみのOMC恒例の一泊撮影会は、皆さんからの情報が無く計画が難行していましたが、このほど岡本企画担当世話役が和歌山観光協会の会員さんであることから、橋本で作られている竹の釣り竿と釣り大会等をテーマにした撮影会ではどうかという線で具体化をすすめることになりました。2月第1日曜日にまず第一陣として関、河合、藤原の各企画担当世話役と岡本さんがロケハンに行かれました。釣り竿の出来るまでには半年くらいの工程があるそうで、ロケハンかたがた天日干し工程などを代表撮影の予定。必要により第二陣ロケハンによる部分工程撮影も予定しております。日程も含めはっきりしたら改めてご案内します。

OMC映像フェスティバルの 作品は7月例会まで

今年は第45回目になる映像フェスティバルは、昨年同様10月初旬の日曜日を予定しています。上映作品は昨年8月から今年7月までの例会作品の中より選定してプログラム編成します。選定は公正に採点して評価し幹事会にて決定します。今年はできるだけ多くの方の作品が上映できるようにプログラム印刷をハガキからA4版三つ折にし封筒にて発送しますので、18名程度が作品発表できると思います。会員諸氏は発表会をめざして年1本でもよいから自信作をつくって下さい。そのためにも2月より偶数月に開催する作品研究会の場を活用してください。

1月例会のレポート

今年初の1月例会は、総会と新年会を兼ねるため、第3日曜の午後1時より、いつもの難波市民学習センターにて開催。32名の例会参加と17本の作品で盛り上がりました。鹿児島からこの日のためにわざわざおいで頂いた新入会員の山口幸代さんの

紹介で大きな拍手が起きました。久方ぶりの江藤さんや岩井さん、及び勝さんらのお元気な姿もありました。今月の司会は合原氏、書記、有村氏、デッキ係に江村、増池の両氏、受付兼照明係に奥、渡辺両氏の担当で会を進行しました。

◆出席者：有村、岩井、江藤、江村、岡本、奥、上総、勝、金子、紙本、河合、黒田、合原、進藤、関、玉井、那須、藤原、前田、増池、松本、宮崎、森口、森下、森田、安居、山口、山本、吉岡、渡辺の30氏に見学者2名の合計32名と作品17本でした。

◆上映作品（今月の記録と講評担当：有村幹事）

1) 中之島光のルネッサンス

増池 茂さん 7分40秒

一昨年のクリスマスの頃に大阪市役所周辺で行なわれたイベントを撮ってまとめられました。ライオン橋、バラ園、中央公会堂、市役所前、川端通りから光のイベントを行なっている図書館へと克明に取材しておられます。全編現録を使ってムードを出しておられます。最後のイベントの中に、別の場所で撮った恋人同士がうっとりとしているカットなどを入れたらどうですか、との司会者の助言がありました。

2) 十日戎（ワイド）

江村一郎さん 6分20秒

今年の1月10日の今宮戎の盛況を早くもまとめて発表されました。江村さん独特のアップ、アップの連続で迫力のある映像が続きます。福娘のアップが、参拝人のアップが随所に出てきます。見事な作品ですが、2～3箇所でもロングの息抜きが欲しい、とのご意見がありました。タイトルバックに流れる「商売繁盛でササもってこい」の掛け声を全編に強調する方が良いのでは、と司会者のお話でした。

3) 瓦

紙本 勝さん 10分00秒

昨年の11月に吉岡さんの企画で淡路島西淡町に出掛けて撮影した瓦工場を中心にまとめておられます。全国的には瓦の生産地は3ヵ所ありその1つを訪問し取材した事。我が国で初めて瓦を使った建物は仏教伝来後創建された飛鳥寺である事など文献

をよく調べて語っておられます。瓦の出来るまでを判りやすく作られた見事な作品でした。

4) 光と音のファンタジー (ワイド)

河合源七郎さん 8分04秒

昨年のクリスマスの頃に中之島界限で行なわれた光のイベントをソニーのハイビジョン (HDV) カメラFX1で撮影し、HDV信号をダウンコンバートしてDV信号にしてワイド映像で発表されました。HDVの編集が現在では高価で尚且つ思うようにゆかないのでこの様な方法も選択肢の一つかも知れません。中之島図書館の壁に映る投影光のピントが今一つと云ったご指摘がありました。私の経験から申しますと現場は案外暗いのでピントではなく、ゲインによるものではないかと思っております。

5) 安曇野水風景

森口吉正さん 8分50秒

日本名水百選を撮り続けておられる森口さん、今回は雪解け水の豊富な長野県安曇野の湧水です。田植えの頃の田園風景、観光地としても有名なわさび田、黒澤明監督の映画「夢」で使った水車のある風景と、日本の原風景が展開します。そして最後に清らかな水の上でカヌーで楽しむ人々が出てきます。カヌーが最後では印象が強すぎるので前の方に持ってゆけば、との司会者のご指摘がありました。いつも通りの名水がテーマであればその方が良くように私も思います。見事な作品でした。

6) ビビ島周遊

有村 博さん 9分05秒

昨年の4月にタイのプーケット島に別荘をお持ちの森田さんに案内して頂き観光を楽しんだ際の記録です。ドイツ、スウェーデン、オーストラリア、中国の若い女性達と同じ高速船のツアーで回った時の思い出です。12月26日に起ったインドネシア、スマトラ島沖の地震によるインド洋大津波で現地は見る影もない有様になったようです。多数の欧米人や日本人にも未だに行方の判らない方が居られるそうです。感慨ひとしおな作品になりました。

7) あの日あの時 (録画)

吉岡貞夫さん 14分25秒

吉岡さんのお住まいは兵庫県宝塚市、10年前の阪神淡路大震災の日には早速ビデオカメラ (Hi-8) を担いで市内の被害地を撮影されたそうです。芦屋市内の奥さんの実家も酷い被害をうけ、そこをお父さん、奥さんと大事な物を探しに行かれ、また取り壊されて跡形もなくなった現地を見て回られる姿が出てきます。地元のサンテレビが吉岡さんを主人公にしての番組を、震災の2年後に作成し、明日1月17日が震災10周年になるので、その録画を見せて頂きました。(今日の例会日は1月16日) 事実は小説より奇なり、と言いますが、ドキュメンタリーの強みでしょう。お身内に被害に会われた方が沢山いらっしゃるのを初めて知りました。そしてどんな場合にも映像を撮っておけば後世に残るのだ、との教訓を頂戴しました。

8) 大阪港界限

奥 宏さん 8分39秒

他のクラブの撮影会での作品です。港内遊覧船サンタマリア号に乗って「大阪港界限を楽しみました」のナレーションでスタート。大観覧車からの俯瞰映像を交えて海遊館、渡し船、天保山公園、ユニバーサルスタジオジャパン、港大橋などが紹介されます。最後は海の彼方に沈み行く太陽で終わります。構成的に云ってこの船に乗ったり、降りたりでは少々無理があるのでは、と司会者のご指摘がありました。

9) 一目惚れ

安居利次さん 6分54秒

48年前の奥さんとのなれそめから始まり、越し方の思い出がスチール写真などを使って紹介されます。一昨年奥さんを亡くされた作者の心情が語られます。最近になってやっと過去の映像を見る勇気が出てきたのでこの作品を作りましたと云っております。奥さんの生前に作られた「じゃじゃ馬ならし」の改作のようでもあるのですが、よく出来た作品でした。

10) 短篇三題 (ハイビジョン)

藤原純三さん 5分40秒

ソニーのハイビジョンカメラFX1で撮影、編集はカノーブスのVELXUS500やら

れたそうで本格的です。そして何とも美しい画面です。最初は走り回る電車、動きの早いものに対するテストでしょう。次に法隆寺、これは静かな環境を、そして最後は伊丹空港を発着する航空機の迫力ある映像でした。いよいよ私たちにもHDVの時代の到来を思わせる実験映像でした。

11) 秋の東福寺 (ハイビジョン)

前田茂夫さん 5分50秒

こちらはビクターのハイビジョンカメラHD1の映像です。期せずしてHDVカメラの映像競演になりました。京都東福寺の紅葉を中心にした映像を見せて頂きました。全体にスッキリした画面で今までの慣れ親しんだDVとはまた違います。ただアップの紅葉の所の半逆光の白とびが気になりましたが、これはプロジェクターの能力不足なのか、一度ブラウン管でも見てみたいように思いました。次のDVの際にも同じ現象が見られました。

12) 秋の東福寺 (DV)

前田茂夫さん 1分00秒

前作の一部をDVにダウンコンバートした映像を見せて頂きました。これがHDVでこれがDVの映像ですと云われても、どのように違うのかまでの判断はその映像次第ですが、難しいように思いました。

13) おしどりの里 (ワイド)

新藤信男さん 5分25秒

おしどりは鳥取県の県鳥だそうです。中国山地の山懐にある日野町根雨の日野川には沢山のおしどりが生息していて観光資源の一つになっているようです。広い川幅の対岸にいる鳥をアップで撮るのは難しいと思われます。カメラが振れますのでもっと頑丈な三脚が必要かもしれません。遠方まで出向かれて鳥を追っておられる情熱に敬意を表したいと思います。

14) ホーミーが聞える

山本正夢さん 5分30秒

場所は大草原の広がるモンゴル。お聞きしますと、ホーミーとは喉から出す音のような独特な歌い方の名前だそうです。草原を馬が駆け、いぬ鷺が舞う。民族楽器を鳴らして歌う人物がオーバーラップします。鶴、山羊、鳴き兎も出てきます。美しい逆

光の中にモンゴル美人の姿も、そして綺麗な夕焼けでおわります。山本さんには何時も珍しい風景を見せて頂きますが、この作品も情緒豊かな見事な作品でした。

15) 奈良公園

宮崎紀代子さん 3分00秒

猿沢の池から興福寺の五重の塔、東大寺の南大門、そして大仏殿へと美しい映像が続きます。短篇ですが、鹿も出てきていかにも奈良らしい雰囲気の商品でした。おわりの後、暗転して作者のお名前が出ますが、タイトルはその作品の看板のようなものですから、最初のスチールカットの中にでも、作者名と一緒にに入れてほしいと思います。

16) 海外旅行ビデオスケッチ

那須典彦さん 10分00秒

中国の黄山、サイパン島、カナディアンロッキーの各地、ギリシャのエーゲ海地方、ニュージーランド南島各地、スイスのベルナーオーバーラント山地などの世界的にも有名な観光地が美しい映像で紹介されます。那須さんがこれまで行かれた海外旅行作品の集大成として作られたのでしょうか。あまり誉めてばかりではこの作者には怒られますので、あえて申し上げますと、NECのパソコンソフト「スマートボイス」でナレーションを語るより、ソフトな女性の声の方がこの作品には似合うのではないのでしょうか。

17) ピピ島周辺

森田光春さん 10分40秒

森田さんは昨年12月中頃にタイのプーケットに行かれて1月8日に帰国されたそうです。何かあるな、と思っておりましたら、案の定最初に「緊急挿入」としてプーケット島のパトンビーチの惨状が紹介されました。ニュースでも見てはいたのですが、酷い被害状況でびっくりしました。その後は8ヵ月前のピピ島の岩礁を中心に克明に描いておられます。司会者も云われるように、プーケット、ピピ両島の平和な頃の観光客を中心とした状況を描いた上で緊急挿入を最後に紹介されたら素晴らしい作品が出来上がるのではないかと思います。

以上で会員さんの作品上映を終り、引き続いて総会を開催しました。